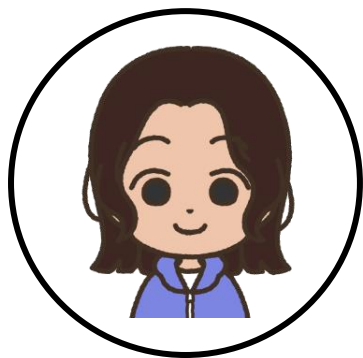




認知症サポーターキャラバン

キャラバンメイト「ロバの会」通信

vol.44
R7.6 月



板橋 亜矢

昨年、キャラバンメイト養成研修を受講し、ロバの会に仲間入り。普段はハピネス内にある、下川町地域包括支援センターで作業療法士、ケアマネージャーとして勤務しています。

認知症には、環境や周囲の言葉かけにより悪化する症状があります。年齢を重ねるとともに発症しやすく、誰にでも起こりうると言われている認知症について、みんなが正しく理解し、接することができれば、たとえ認知症になったとしても、その

方は心穏やかに、自分らしく生活することもできます。一人でも多くの理解者が増え、不安や悩みが少しでも軽くなるように、私にできることを一つ一つしていこうと思っています。よろしくお願いいたします。

今回のロバの会通信は—

『高齢者の居場所がわからなくなった時の対応』について

2月の学習会でまとめた質問とその回答を掲載します。

認知症や、その疑いによる高齢者の行方不明の届出は、昨年全国で1万9千人余りと、これまでで最も多くなったことが警察庁のまとめでわかっています。

無事発見されることがほとんどですが、時間が経つほど移動距離が長くなり発見が難しくなること。また、夏は熱中症や脱水症状、冬は低体温症などの危険性があるため、より早く発見することが重要となってきます。

そこで、高齢者の居場所がわからなくなった時の対応について、

みやこし 下川駐在所の宮腰さんに聞いてみました！

Q1：家族や知人の行方がわからない時、まずどうしたらいいですか？

本人がいないことに気付いたら、「すぐに見つかるかもしれない」などと遠慮せず、速やかに下川駐在所か110番通報をしてください。名寄警察署とのネットワークがあり、すぐに対応します。



Q2：警察への通報時、どんなことを伝えたらいいですか？

- ①名前、性別、年齢
- ②服装（服の色、帽子、メガネ）、格好（背丈、体型）
- ③いなくなった時の様子、時間、どのくらい経っているか？
- ④どのくらい歩けるか？お金はもっているか？
- ⑤よく行く場所
- ⑥（過去に行方不明になったことがある方）当時の発見場所



Q3：すぐに見つけてもらうため、行方不明にならないためにできることは？



- ・名前や連絡先を衣類や持ち物の目立たないところに書いておく
- ・なるべく直近に撮影した、本人と分かる写真を準備しておく
- ・電波を利用して居場所を特定しやすい機器（GPS）や、外出を感知する見守りセンサーなど便利な機器を活用する
（携帯電話やスマートホンを日ごろから持ち歩く習慣をつける）

こちらも活用

SOS ネットワーク

行方不明になる恐れのある方の情報を事前に登録し、いざという時、捜索の手配がスムーズに運ぶためのシステムがあります。

GPS レンタル

杖や靴底につけられる GPS に介護保険でレンタルできるものがあります。位置情報を家族のスマホアプリで見することもできます。

担当のケアマネージャーか、地域包括支援センターにご相談ください。

次回の学習会は6月24日、18時30～総合福祉センターハピネス教養会議室にて、
内容は『認知症の人と共に生きる家族の気持ち』です。



【お問い合わせ】

キャラバン・ロバの会

（代表）杉之下真由美・杉田鈴子・坂入奈緒美・寺田律子・筒渕恵子・竹本礼子・板橋亜矢

事務局 下川町地域包括支援センター

☎ 5-1165(いろいろご)

代 表 杉之下 真由美

☎ 090-9752-1180

